

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. クライミングスクール (4/4 三倉岳) 報告
2. 登山教室 (2 年 4/11 陀峰山、1 年 4/18 行者山～傘山) 報告
3. 定時総会 (5/15 ホテルチューリッヒ東方 2001) 報告
4. 『加藤武三作品集～広島をめぐる山と谷』紹介
5. 岳連短信

1. クライミングスクール報告

(指導部 塩田 徹)

第 1 回 4/4(日)

山城：三倉岳 炊事棟

人数：20 名 (スタッフ含)

残念ながら雨のスクールとなりました。三倉岳、上と中の炊事棟に受講生 6 名ずつに別れ上でラッペル講習。足絡みの一時停止、リーダーと初心者のラッペルの際のリーダーの役割などを講習し、中の炊事棟でハーネス、装備品の装着、エイトノットからクローブヒッチ、トップロープのビレイ講習などを講習しました。午前と午後で受講生が入れ替わっての講習をしました。

【感想文】

(受講生 K.M)

今年度初めてのクライミングスクールは、あいにくの雨のため炊事棟でのロープワーク講習になりました。

これまでは縦走を楽しんできたので、アルプスの岩稜を歩くことはあってもクライミング経験がなく、いきなり岩場に向かうより良かったなという気持ちと少し残念だなという気持ちで集合場所に着きました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前に検温し、記入していた体調管理チェックシートを受付で提出するなど、例年とは異なる対応が求められていると思われますし、雨でも集まって講習を受けることができ、良かったと思いました。

受講生は 2 班に分かれ、2 か所の炊事棟で午前午後入れ替えての講習でした。

まず 1 班は最初にハーネスを着け、ウエストベルトやレッグループに緩みがないか、捻じれがないか、ズレていないか等を確認しました。

次に、フィギュアエイト・フォロースルーでロープをハーネスに結束し、末端処理を施しました。慣れれば簡単に出来るようになるのですが、末端処理をするための長さが足りず、結び直すこともありました。

また、クローブヒッチによるロープの固定では、利き手とは逆の手でもできるように練習しました。

2 人 1 組になってからは ATC を使い、クライマー役とビレイヤー役を交代しながら、確保しました。お互いがチェックすること、声を掛け合って行動することなど、双方の意思疎通が重要であると思いました。

相手との体重差がある場合、ロープに振られてしまうけれど、絶対にビレイヤーは手を離してはいけないし、例え 2 人ともが宙吊りになったとしても、下りられるということを見せていただき、とても理解し易かったです。

午前中の最後は、使用したロープのまとめ方でした。手で振り分けるのは辛いので、肩掛けで、1 人は束ねやすいように絡んでいるロープをほどきました。

午後からは、午前中の 2 人 1 組で懸垂下降の練習を

繰り返しました。セルフビレイを取り、手袋を着用し、環付カラビナのロックは閉じているか、進行方向も確認し、声を掛けてから行動する。1つずつ丁寧に、確実にできるよう自宅でも練習したいと思っています。

また、炊事棟の梁にぶら下がり、器用に足を使ってロープを手繰り寄せ、太ももに巻き付ける仮固定も行いました。ミュールノットに比べ、ガクンと落ちることはありませんでした。

あっという間に時間が経ち、第1回目のクライミングスクールが終わりました。

これからもよろしくお願いします。

(受講生 柏原 宏紀)

楽しみにしていた1回目のクライミングスクールでしたがあいにくの雨天。三倉岳キャンプ場の炊事棟で2チームに分かれ、ラッペルとトップロープでのリードクライミングの講習を実施して頂きました。

午前中ラペリングの講習ではセルフビレイの取り方に始まり、ビレイデバイスを使った動きを講習。午後からはトップロープクライミングにおけるビレイヤーの動き、またエイトノットやロープ収納など基本を教えて頂きました。私は今年度スクールからの初心者で、これまで一度クライミングジムでリードクライミングの講習をして頂いたことがあったものの本や動画などで観たことがある程度でしか経験が無く、こうして教えて頂き実際に動いてみることで理解が深まったと思います。

今回参加のスクールメンバーは去年からの継続メンバーも多く参加されており、皆さん少なからず色々なことを経験されているご様子。月1回の講習時以外も家で自学することではやく皆さんのレベルに追いつきたいと思います。

岳連が主催されている比婆山スカイランなどこれまでトレイルランニング主体だった私が今回クライミングスクールに参加させて頂いたきっかけは昨秋、憧れであった大キレットでの槍穂縦走を叶えたことに始まります。初めてみる北アルプスの稜線上の絶景に感動し、深く追及していく中でいつか北鎌尾根やクライミングでの小槍登頂をかなえてみたいと思うよ

うになりました。まだまだそのような力量ではありませんがクライミングスクールでお世話になる中で山のスキルを磨き、また老若男女問わず山の仲間づくりが出来ればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



(写真提供 塩田)

2. 登山教室報告

(指導部 森本 寛)

2 年生第 1 回 4/11(日)

登山形態：日帰り山行

山城：陀峯山

人数：8 名 (スタッフ含)

今回は今期最初の山行でした。天候に恵まれ予定通りのラインで行動する事ができました。

【感想文】

『2 年生 1 回目の山行講習を終えて』

(登山教室 2 年生 吉部 恵理)

2021 年 4 月、1 年遅れで正式に 2 年生のスタートを切りました。昨年はコロナ禍で不透明な状態の中、一時は登山教室中止の連絡に落胆したものの希望の光も差して来て 6 月からスペシャルな講習＜ハイキングクラス／岩稜クラス＞が始まり、1 年生の講習では行ったことのない里山縦走、2 年生の予習ではロープワークをしながら過ごせたことは、振り返ってみるとプラスの経験でしかありません。しかし 4 月開講直前に同期生が 3 名となってしまいました。2 年間苦楽を共にしたメンバーと一緒に受講出来なくなってしまったことだけは非常に残念です。少人数で開催して頂けることに感謝し、自身の受講目的を確認し、残りのメンバーと今まで以上に協力してこの一年を乗り切って卒業したいと気持ち新たに第一回目を迎えました。

4/10 陀峯山での岩稜歩き講習会日はこれ以上ないくらい晴天に恵まれました。最初の羅漢岩の上に着くと遠くで四十雀の囀りが聞こえ、青い海がきらきら光り、左側に早瀬大橋が、対面に倉橋島の山々が見え、眼下の海水浴場でスタンドアップパドルもされているのが点のよう。この先も見たことのないくらいの量の奇岩が続きました。印象に残っているのは、ひよこ饅頭のような形の岩、最後は大きな楕円形をした髑髏岩、岩にはっきりハート型をした窪みの岩の造形です。

山行の話をしますと、登りでは羅漢岩 1 峰→7 峰で、スタッフ陣が張られたロープを使って受講生は通過を繰り返しました。中間エイトを作ってハーネスのビ

レイループのカラビナに付けて登攀開始。フィックスロープにフリクション(クレムハリスト)を作ってトラバース。確保器にセットしてラッペル下降。木や岩の支点が作れない時、4 人がスリングをつけて座り支点とする方法も知りました。

陀峯山は聞いていたとおり滑りそうな崩れそうな花崗岩の山でしたが、バランスを崩して滑り落ちそうなスラブが多く歩行練習になりました。アドバイス頂いて腕を突っ張って靴の裏を付けて歩くとフリクションが効いているのが実感出来ました。

登攀中、岩にかけた手元がごっそり取れるヒヤリ体験が最後尾で起こりドキリとしました。小さな松を握ると木が取れるかもしれないと注意され、危険箇所は慎重さが必要です。

ロープワークの苦手意識も回数を重ねる毎に薄くなって来ていますが「登ります!」と合図してスタートしかけたらセルフビレイを解除していなかった等、抜けもあり、先の動作を予測して準備しておくことも今後の課題です。

車道に出てから追ノ浦溪谷、丈ノ内展望所に出ると待ってくださっていたスタッフ K さんからの有難い差し入れのコーラを飲んで休憩して、CM 撮影で有名になった天狗岩へ回りました。

その後、327M ピークまで登ってハーネスも外し下りの尾根に入りましたが、下りはバリエーションルートです。安易に岩稜地帯を下ると切り立った崖に出て行き詰まったりしてトラバースや登り返しも危険ということを認識しましたが、今回冒険的なところが楽しいと感じたのは経験ある登山教室スタッフ陣と一緒にだからだと思いました。

家に帰って顔を見ると顔上半分が真っ赤に火照っていました。鼻の皮まで剥けそうでしばらくはマスクでしっかり隠して過ごします。

1 回目の岩稜歩きを無事に終え、これから一年間が楽しみです。訓練の中に達成感を味わいたいと思います。スタッフ初め受講生の皆様、これからもよろしく願いいたします。

(次頁写真提供 森本)



山のみの実施でしたが今回は無事正規カリキュラムの内容で実施できました。(森本)

【感想文】

(登山教室 1 年生 島本 章生)

4 月 18 日 (日) 行者山から傘山を登りました。天候は概ね晴れていながらも肌寒い一日でした。登山教室 1 年生の私において、初めての実地練習です。

点呼を取り、一列に歩きます。森本リーダーが発する注意事項は後方にリレー伝達します。例えば、落石あれば、「らく注意」と注意を促します。コンパスを地図に当て進行角度と進行方向を確認します。コンパスは方位磁石と思っていた私には目から鱗でした。記録係から「現在〇〇分遅れです」と各ポイントでリーダーに報告がされます。すれ違う人には道を譲ります。休憩ごとに行動食を摂ります。尾根か、谷か、トラバースかも意識して歩きます。

もちろん、実践中でもしっかりと自然を楽しみました。息吹く新緑に彩られた山はエネルギーに満ち、尾根道から見える瀬戸内海は霞がかりながらも美しく、艶やかな紅紫色の山つつじの花々はまるで我々を歓迎してくれているようでした。下山道に沿う沢の澄んだ水にも疲れを癒されました。

リーダーの森本さんからは、様々な登山道具の説明、注意事項や経験話などを受け、とても参考になりました。必要な道具の多さに驚きました。少しずつ揃えていきます。小家石さんからもご教示を受け、憩いの森でのコーヒー及びメンバー提供の山菜入りのご飯は、アルファ米に思えぬほど美味しかったです。山奥さんは、後方で参加者の安全を絶えず見守ってくださいました。20キロ近いザックを背負って歩く先輩達はさすがだと思い、テントもご披露いただき勉強になりました。また、教室のメンバーと一緒に歩けば、仲間意識も芽生えるのでしょうか。とても心強く感じました。皆様、ありがとうございました。

最後、私事ですが、憩いの森を出た後、左ひざ周りが痛くなり、残りの下山がとても辛かったです。頂上付近なら皆に迷惑を掛けていたことでしょう。翌日には痛みは治まったものの登山において脚は支えその

1 年生第 1 回 4/18(日)

登山形態：日帰り山行

山城：行者山～傘山

人数：13 名 (スタッフ含)

1 年生最初の山行でした。昨年度はコロナ対応で行者

ものですから、膝を傷めないように慎重に歩かねばならないと肝に銘じています。



(写真提供 久保田 征治)

3. 定時総会報告

(事務局 西部 伸也)

5月15日(土) ホテルチューリッヒ東方2001において当連盟の今年度定時総会が無事終了しました。翌日から広島県にも緊急事態宣言が出される予定の中、会場が密にならないことを心がけ、1時間未満で総会を終えました。

出席者は各所属団体代表9名・個人会員3名・団体代表以外の理事8名・監事1名・名誉役員2名の計23名で、委任状も含めて出席者の議決権個数は255分の249でしたので、総会は十分に成立しました。

時間短縮のため、昨年度事業報告は資料でもって代え、昨年度決算報告・今年度事業計画・予算案に時間を割きました。

昨年度決算報告では、比婆山国際スカイラン大会等の中止に伴う収入減にも関わらず、財務改善策の実行、国からの持続化給付金や家賃支援給付金、会員の皆様からの賛助会費協力により、連盟財産が前年度より220万円近く増えたことを報告しました。

今年度事業計画では、昨年度実施できなかった80周年記念行事を引き続き遂行していくほか、昨年度と同様の重点項目(県民ハイキングの実施、スポーツクライミングの強化・PR、安定した財務基盤を目指すこと、新型コロナ対策、山岳共済への加入促進)が承認されました。

今年度予算案では、80周年記念行事(記念誌発刊・登山フェスティバル等)で約100万円の臨時支出が予想されることから、昨年度連盟財産が増えたこともあり、今年度は例外的に約100万円の赤字予算を組むことも承認されました。

最後に、役員改選では、西部理事の退任が承認され、会長・副会長・理事長は継続であることが報告されました。西部さんは今後は事務局スタッフとして引き続き連盟の事務局業務を遂行していきます。

なお、総会終了後の懇親会は、コロナ対策のため昨年同様に中止され、総会終了後には、翌日から広島県に出される緊急事態宣言への対応を協議するため、臨時の運営会議が持たれました。



総会会場の様子と連盟旗・JMSCA 旗

4. 『加藤武三作品集～広島をめぐる山と谷』紹介

(理事長 豊田 和司)

昨年春、広島山の会の創設者、加藤武三氏の回顧展が開催された。その好評を受ける形で、このほど氏の画集が出版された。加藤氏は 1973 年に出版された最後の著作『緑の回廊』の中で、自然破壊を危惧し「すき透った緑は人間に生きる喜びを与えてくれる。その緑を少しでも多く守り育てて、次代の若ものに継承することは私達の義務でもある。」と記されている。

加藤氏が描いた山並み、里山、溪谷には、「加藤グリーン」とでも呼びたくなる独特の緑があふれている。前半三段峡であろうか、上から見下ろした溪谷美。それが後半の透明な緑の木立に続くと、まるで自分が溪谷を泳ぐ魚になったものかと錯覚するほどだ。

詩がまた素晴らしい。「ひとりで 急な斜面の熊笹を攀じるとき/ひとりで 老樹の年輪に手をふれるとき/ひとりで岩の感触に太古を偲ぶとき/いのちの孤独につきあたりながら//人間に/死があることを忘れている//不思議なことだ/肉体は疲労に/よろめいているのに/心のどこにも/死の予感はない」

哲学者の井筒俊彦によれば、哲学は哲学書を読むことではなく、自身の神秘体験を思い出すことだという。そして「哲学は詩によって完成する」とも。だとすれ

ば、加藤氏のこの営為こそ「詩」と呼ぶにふさわしい。

詩・書・画・篆刻（ハンコ彫り）を嗜む加藤氏こそは、東洋の輝かしい文人の伝統に連なる方であり、我々が生涯の目標とすべき高峰である。

頒価 3000 円＋送料。

(広島県山岳・スポーツクライミング連盟の事務所に一冊ありますので、一度お手に取ってご覧ください。事務所には故高見和成氏らが奮闘して制作した、同じく加藤氏の幻の名著『焚火 (ほたび)』もございます。購入問合わせ先；加藤真理、携帯 080-1933-2822)



5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 494 (5 月号)

福山山岳会『会報』R3. 5 月号

広島山岳会『山嶺』第 869 号 (R3. 4 月)

『中信高校山岳部かわらばん』第 694 号 (4/29)

広島山稜会『峠通信』第 743 号 (5 月)

広島やまびこ会『やまびこ』No. 779 (5 月)

2. 行事の中止

ホームページでも案内していた下記の行事は広島県のコロナ緊急事態宣言を受けて中止といたします。

5/30 比婆山の登山道整備による自然保護活動

6/19～20 山岳レスキュー(無雪期)研修会(県民の森)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい